

**2008年度 図書館サービス・システム委員会 実務担当者研修会
ワーキングA 活動概要**

テーマ	魅力的な図書館を印象付けるための広報テクニック		
概要	参加者(館)が現状で実施している広報活動についての見直しを行い、より効果的な広報活動への足がかりを作る。対象ツールは、ポスター・チラシ(フライヤー)とする。各館の事例(現状報告・企画立案・これまでの戦略と実際の効果・今後の目標や計画等)について情報交換を行いながら、各館に適した改善案を探り、実際の広報ツールに反映させることを最終目標とする。あわせて、上記ツールを作成する上でのテクニック(デザイン・レイアウト・キャッチコピー等)向上も図る。		
講師	仁上 幸治 氏	所属	早稲田大学図書館

事前	1. 自己紹介: 担当業務、経験年数等 2. 事前課題: ■ 基調文献『図書館広報実践ハンドブック』(ISBN:4820402021)および参考文献の講読 ■ 各館が現状で用いている広報ツールの収集と課題設定、改善案の作成 3. 情報交換		
当日	【報告】 企画説明、事前活動、研修会当日のワーキング内容について口頭報告(藤井委員)		
	【1日目】 <ol style="list-style-type: none"> 事前活動で作成した自館の改善案を説明(個人発表)→全体討議 小講義 「図書館広報はなぜ読みにくいのか(中級編)―レイアウト改善の5つのポイント―」(講師) 		
	【2日目】 <ol style="list-style-type: none"> 事前活動で作成した自館の改善案を説明(個人発表)→全体討議<1日目の続き> 小グループ(2班)での活動 1日目にピックアップした事例について、再改善案を作成→制作物の発表→相互評価 まとめ(講師) 		
	【発表】 研修会当日のワーキング活動内容報告(報告者:愛知工業大学 加藤氏)		
事後	■各館での広報活動について、研修会後に行った改善策や今後の計画などの報告(参加者) ■全体報告ファイルの更新(石田委員主導)		
そのほか (特記事項等)	■基調文献となる『図書館広報実践ハンドブック』は、参加者各自もしくは参加機関で用意すること。 ■参考文献は以下の2点。いずれも『館灯』記載のため参加機関に所蔵あり。 仁上幸治. デジタルリソースのフル活用へ向けて: 講習会の刷新からオンデマンド教材の開発まで. 館灯. vol.46, 2007, pp.22-38. 仁上幸治. 情報リテラシー教育と新しい図書館員像: 『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで. 館灯. vol.41, 2002, pp.39-52. ■参加者持参: 事前活動発表用の資料、各館が現在使用している広報ツール・グッズ等		

委員※	藤井 智夫	所属	東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館
委員	守田 正江	所属	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館
委員	石田 信	所属	南山大学名古屋図書館

※ワーキング責任者